

<b>留 学 報 告 書</b>
------------------

記入日:2016年7月18日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部
留学先国	イタリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ヴェネツィア大学 現地言語: Universita Ca'Foscari Venezia
留学期間	2015年9月～2016年7月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2016年7月2日
明治大学卒業予定年	2018年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:1月～2月 2学期:2月～6月下旬 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	18846
創立年	1868年

留学費用項目	現地通貨(ユーロ)	円	備考
授業料	0	円	協定留学の為
宿舍費	€3000	375000円	
食費	€2500	312500円	
図書費	€70	8750円	
学用品費		円	
教養娯楽費	€600	75000円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費	€800	約10万円	形態:明治指定の保険に加入しました。
渡航旅費	€800	約10万円	留学中の海外旅行含む
雑費	€1000	187500円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計	€7870	1158750円	

## 渡航関連

**渡航経路:** 成田発アブダビ経由

渡航費用

チケットの種類 エコノミークラス

往路 \_\_\_\_\_

復路 \_\_\_\_\_

合計 約6万円(往復セットのチケットを購入しました。)

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

エティハド航空

## 滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

前期は大学指定の学生寮、後期からアパートを借りました。

2) 部屋の形態

個室 OR  相部屋(同居人数     )

3) 住居を探した方法:

友人からの紹介

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

学生寮は、キッチンが無い場所に住んでいましたが、唯一の調理器具であった共用の電子レンジなどもほとんど故障していたため、ほぼ使えませんでした。覚悟はしていましたが、想像以上に不便だったため今後ヴェネツィアへの留学を考えている方には、あまりお勧めできません。出来る限りキッチンのある寮を選ぶのを勧めます。

## 現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった

利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

留学先にも、困った際に連絡する窓口はありましたが、私の場合はほとんど友人に助けられました。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

基本的に安全でしたが、現地のニュースや、友人からの情報で危険地域情報を収集しました。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮にはネットがあると書かれていましたが、実際はネットキーというものを使用しなければならず、これが全くつながりませんでした。そのため、ネットが必要な時は図書館にいつ Wi-Fi を使用していました。また、現地ではプリペイド方式の携帯を購入し、毎月チャージしながら使用していました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

キャッシュパスポートというプリペイドカードを作り、必要に応じて親に奨学金からチャージしてもらっていました。また、クレジットカードも使用していました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

どうしても日本食を食べたいのでしたら、現地ではほとんど手に入らないので調味料を持っていくといいかもしれません。醤油はありました。

## 進路について

1) 進路

就職     進学     未定     その他:

2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

### 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
36単位	<input checked="" type="checkbox"/> (認定の申請中)単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intercultural Communication	異文化コミュニケーション
科目設置学部・研究科	
履修期間	2015年度秋学期
単位数	6
本学での単位認定状況	(申請中)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式に加え、ディスカッションやランチパーティーなど(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が15回
担当教授	Pavan 教授
授業内容	文化の定義から始まり、各国からの留学生とのディスカッションや教授が用意したアクティビティにより、自身では気づかないような自国の文化の特徴やコミュニケーションスタイルの違いなどを発見し、同時に、お互いを分かり合えるように異文化への理解を深めていく授業でした。
試験・課題など	レポートとそれについての教授とのディスカッション、筆記試験
感想を自由記入	教授の Pavan 先生が、どんなことでも面白いと捉え、そこに無意識の文化の違いなどを探して新しい研究のネタにしようと受け入れるような方で、本当にいろんな面において勉強になりました。自身では気づかないような日本での『普通』の特徴を、先生が用意したアクティビティによって他の文化を持つ人たちと交流することで見つけることができ、今後の異文化コミュニケーションに役立つ知識を数えきれないくらい得ることが出来ました。本当に取ってよかった授業だと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Cultural Studies of East Asia	東アジア文化学
科目設置学部・研究科	
履修期間	2016 年度春学期
単位数	6
本学での単位認定状況	(申請中)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が15回
担当教授	Marco 教授
授業内容	ヨーロッパの研究者の視点から見た東アジア文化学
試験・課題など	プレゼンテーション
感想を自由記入	教授が東アジアの芸術や色、慣習などの文化に非常に詳しく、様々な知識を授業を通して教えてくれました。また、教授自身も積極的にアジアからの留学生に質問するので、自分の文化を説明するためにも改めて調べる必要があったり、発表したことについてヨーロッパの学生が抱いた意見や感想を述べてくれるため、自分一人で調べるだけでは持てなかった観点を持つことができる、非常に面白い授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
International Management for East Asia	東アジアにおける国際経営
科目設置学部・研究科	
履修期間	2015 年度秋学期
単位数	6
本学での単位認定状況	(申請中)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式、ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 270 分が5回
担当教授	Perri 教授
授業内容	東アジアにおいてビジネスを展開する際の基礎的戦略
試験・課題など	筆記試験
感想を自由記入	経済学部の大学院生と一緒に授業を受けたのですが、やはり経済に関する知識が非常に豊富で、授業中に行われるディスカッションを通して勉強になることが多くありました。当然ですが、経済を考える際に必要とされる英単語はあまり聞いたことのないものが多く、さらに授業スピードが速い為最初は大変でしたが、予習の際に難しい単語を友人に説明してもらおうなどしているうちに、すぐに慣れました。慣れてからは、予習の段階で立てた仮説が実際はどのようなのかなどを授業で照らし合わせるのが楽しみになりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Professional English	専門英語
科目設置学部・研究科	
履修期間	2016 年度春学期
単位数	6
本学での単位認定状況	(申請中)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が15回
担当教授	Ludbrook 教授
授業内容	海外で研究職や就職先を探す際に必要とされる、履歴書や研究計画書に求められる英語
試験・課題など	筆記試験、教授との個別ディスカッション
感想を自由記入	教授が英語全般について非常に詳しい方で、研究職や高い英語のスキルが必要とされる職業を探す際に必要とされる「正しい英語」について非常に細かく教えてくれました。実際に各自が CV や Personal Statement を提出し、非ネイティブが犯しやすい細かな間違いを訂正したうえで、さらに効果的なフレーズや様々な単語のニュアンスについても丁寧に分かりやすく説明してくれる、学ぶことの多い授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
English for Tourism		観光業と英語	
科目設置学部・研究科			
履修期間	2015 年度秋学期		
単位数	6		
本学での単位認定状況	(申請中)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に90分が15回		
担当教授	Cesiri 教授		
授業内容	観光業をより国際的に魅力的なものにする為の英語表記などに求められる工夫		
試験・課題など	プレゼンテーション		
感想を自由記入	<p>国外からの観光客に向けて自分の好きなものや場所を紹介する際に、どうしたらより魅力的なものとしてプレゼンできるかという視点に立った授業でした。実際に観光業界で使われているテクニックなどを学び、それを駆使して実際に自分のツアープランを考案し、パンフレットなどを作りプレゼンするといった形で進んでいきました。実在する場所で、まだ現実にはないプランが求められ、大体の予算まで計算してみたりと、すごく実践的なアクティビティを体験することが出来ました。</p>		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
English Language (Critical Incidents)		異文化コミュニケーションにおける英語	
科目設置学部・研究科			
履修期間	2015 年度秋学期		
単位数	6		
本学での単位認定状況	(申請中)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式、ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に90分が15回		
担当教授	Philips 教授		
授業内容	異文化コミュニケーションにおける英語とどう向き合うか、求められているのはどのような英語か、文化摩擦にどう対応していくか		
試験・課題など	筆記試験		
感想を自由記入	<p>非ネイティブとして目指すべき英語話者の形から、異文化との遭遇にどう効果的に対処していくかなどをケーススタディ形式で幅広く学びました。特に印象に残っているのが、イギリス人である教授に言われた、『地球上の英語話者のほとんどが非ネイティブであるという状況で、会話にネイティブしか使わないようなスラングや、行き過ぎた流暢さがあってもスムーズな会話を妨げる要因でしかない。皆さんがこれから仕事などで相手にする人のほとんどは母語として話していないのなら、皆さんが鍛えるべきはそういうところではなく、明確に分かりやすく話す技術になるだろう。』という話で、これからは英語を使用していくうえで非常に大事な観点だと思いました。</p>		

### 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2014年 1月～3月	協定留学の選考発表
4月～7月	留学先の住居などの手配、ビザの申請、留学先から証明書が届く
8月～9月	荷造りなどの準備、9月出発、到着後は滞在許可証などの申請
10月～12月	勉強、クリスマス休暇(約二週間ほど)
2015年 1月～3月	前期試験(1月)、試験終了後、すぐに後期スタート
4月～7月	後期授業、期末試験(6月)、帰国(七月)
8月～9月	
10月～12月	
2016年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	一つは、国際日本学部の授業を受ける中で二つほど興味のある分野が絞られてきて、それらをたくさん勉強する中で、その分野は海外の大学ではどのように扱われているのだろうか、日本で学ぶのと違いはどうかなどの興味が非常に強くなったためです。また、もう一つは、大学に入学し、様々な国からの留学生と友人になり、それまで生きてきた中で全く知らなかった世界の話を聞いた時に、もっといろんな国の事を知りたいと思うと同時に、様々な国の人が集まる中で、自分もその海外から集まる中の一人になってみたいと思うようになったためです。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	留学に先立って、母語でない英語で受ける授業でより多くのものを学び、得たものを自分の中でしっかり消化するためにも英語のレベルをしっかり底上げしておこうと思い、意識的に様々な英語に触れるなどの準備をしていました。このように準備しておいたことは留学期間中に非常に役立ったと思います。 後悔していることは、イタリア語の準備です。基礎的なことはやっていたのですが、ポキキャブラリーをもっと増やしておくべきだったと思います。語彙が足りないせいで、留学の前半は自分で思っていたよりもイタリア語が伸びず、苦労しました。後半になって軌道に乗ったのですが、準備がもっとうまくいってればもっと伸びていたように感じます。
この留学先を選んだ理由	大きく二つありますが、一つは日本語学科があり、海外で日本語を学ぶ学生たちや、教えている教師たちの様子を見て得た新たな観点などを自身の今後のゼミなどの学習に活かしていけたらと考えたからです。単位はもらえませんが、日本語の授業に TA として多く参加して、様々なことを学べたと思います。 もう一つは、ベネツィア大学には毎年、様々な国から多くの留学生が集まると調べて分かったので、色々な習慣やコミュニケーションスタイルを持つ人々との交流を通して、自身の将来に活かしていけたらと考えたからです。将来、様々な国から来た人達と関わっていく際に、一つでも多くの国の人と関わり、その国の慣習などを知っていればそれが大事な経験となるだろうと思いました。
大学・学生の雰囲気	あくまで一般的な傾向ですが、イタリア人はオープンで話しやすい人が多く、こちらから声をかければ大歓迎で受け入れてくれる人が多く、とても馴染みやすかったです。大学も、同じような分野の授業を受けていると毎回顔を合わせる人が大体同じになってくるので、自然と仲良くなっていくことが多かったです。 また、大学側が学生同士の交流のためのイベントを設けることも多く、それに顔を出せば普段知り合うことのない人たちとも知り合えます。
寮の雰囲気	寮は、三つある中の一が一番安い寮にしたのですが、非常に環境が悪く、あとと書いてあったネット環境も使用できずに、困ることがたくさんありました。部屋の間の壁も薄く、隣の部屋の人たちが毎晩三時ごろまで大騒ぎしていたため最初は眠るのも大変でした。そのため、4 か月ほど住んだ後にアパートを探して引っ越しました。
交友関係	上述のように、日本語学科の授業に TA として参加していたため、その授業に参加している学生たちとはすぐに仲良くなりました。日常生活で困ることがあると、迷わずすぐに手を貸してくれたり、非常に助けられました。 また、大学側が主催するイベントなどでも多くの友人を作ることが出来ました。非常に多くの国から留学生が来ていたため、とてもいい経験となりました。
困ったこと、大変だったこと	上にも書いたように、最初に入った寮では非常に大変な時期を過ごしました。ネット環境がないうえに、唯一の調理器具として用意されていた共用の電子レンジなども常に故障していたため、食事でも苦労しました。 また、滞在許可証を取得する為に警察署に行く必要があるのですが、ビギナーレベルのイタリア語では苦労しました。
学習内容・勉強について	ヴェネツィア大学では、留学生は特に専攻を決める必要はなく、好きな授業を好きなように取っていました。その中で私は主に日本語学科の授業と国際関係などの授業を取っていました。人文科学系の授業では専門用語が多く、論文を読むのに苦労しましたが、日本で学んだことがある内容となげることが出来るものも多くあると気づき、うまく活用するようになってからは効率もかなり上がりました。 また、毎回の授業を最大限活用する為に毎回の復習を欠かさないようにすれば、より学ぶことの多い機会になりました。

課題・試験について	課題の面では、プレゼンの回数がとても多いように感じました。また、プレゼンだけでなく教授の質問に答える口頭試験などもあり、日本と違うところも多くありました。イタリアの学生は、小さいころからプレゼンなどの発表に慣れている人が多く、皆上手だったため、非常に学ぶことが多くありました。筆記試験は、範囲が非常に広いものも多かったですが、日ごろから復習をしっかりとしていれば十分に対策がとれるものでした。
大学外の活動について	クラブ活動には特に参加しませんでした。現地の学生と一緒に地元の野球チームで練習させてもらったり、時間があるときに友人で集まってサッカーをしたりしました。また、ずっと憧れていたユヴェントスのリーグ戦を見に行くことができ、感激しました。やはりサッカー熱が高く、想像していた以上の熱気があり非常にいい経験になりました。
留学を志す人へ	違う国で新鮮な環境の中で勉強することは刺激が多く、学ぶこともたくさんあるので、ご両親ともしっかりと話して、ぜひ行ってみたいと思う場所があり、了承が得られれば目指して頑張ってみてください。その際に気を付けてほしいのが、日本での授業をなおざりにせずに、しっかりと受けてください。行く前に自分の興味のある分野をしっかりと勉強していた人と留学先だけで頑張った人とは、同じ授業でも得られるものは大きく違ってくると思います。留学先で勉強したい分野が変わることもよくありますが、その場合でも日本でしっかりと勉強したことは無駄にはならないと思います。留学を志す方は、その機会を最大限活かす為にも日本にいる間からしっかりと勉強してください。

## 1週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中		授業	授業		予習		
	授業	授業		授業		時々授業	復習または小旅行
午後	授業				授業		
	TAなど日本語学科への参加		TAなど日本語学科への参加	TAなど日本語学科への参加	授業		
夕刻	TAなど日本語学科への参加	友人と散歩など	TAなど日本語学科への参加	友人たちとサッカーなど	復習	バーなどでサッカー観戦	
夜	復習	予習、復習		復習		バーなどでサッカー観戦	バーなどでサッカー観戦